

# 中国語共通語の“的”と広東語の “噉”の文法機能

—重ね型形容詞が述語になる場合を対象として—

桂 雯

## 要 旨

本稿では中国語共通語の“的”と広東語の“噉”の文法機能を比較するために、内部にバラエティがある重ね型形容詞が述語になる場面から、重ね型形容詞と共通語の“的”および広東語の“噉”の共起状況を比較した。その結果、重ね型形容詞が述語になる際に、両者に異なる傾向が現れた。この傾向の相違はどのような原因によってもたらされるのかについて、重ね型形容詞と構造助詞という2つの側面から考察した。その結果、重ね型形容詞が述語になる際に、共通語と広東語の構造助詞との共起傾向が異なる原因は、広東語の重ね型形容詞のほうが状態性が強いことであるとわかった。広東語の述語である重ね型形容詞が“噉”を伴うと話が終わっていない感じが生じる原因は、指示詞から虚化された“噉”が連結機能を持っていることである。

## キーワード

構造助詞 文法機能 述語マーカー

## 1 はじめに

中国語の助詞とは、使用頻度が極めて高い詞類の一種であり、はたらきの全く異なる多数の虚詞をまとめた呼び方である。劉(1988)によれば、中国語の助詞は機能に基づいて構造助詞、アスペクト助詞、語気助詞という3つに分類することができるが、共通の特徴もある。たとえば、大多数の助詞は実詞とフレーズまたは文に付属する形で用いられ、単独で用いられることはないことや、文法的意味を表すだけで、語彙の実質的な意味を持たないことなどの特徴をもつといわれる。その中で、構造助詞は、語と語を結び付け、一種の文法構造関係をもつフレーズを作る助詞であり、共通語では主に“的 de”“地 de”“得 de”“所 suo”“等 deng”“给 gei”“似的 shide”<sup>1</sup>などがあるといわれる。

共通語では一般的に“的 de”は定語(連体修飾語)の文法的マーカー、“地 de”は状語(連用修飾語)の文法的マーカー、“得 de”は補語(述語の後ろにあって補充説明をする成分)の

<sup>1</sup> 本稿のローマ字表記は、共通語はピンイン、広東語はイェール式広東語ピンインを用いる。

文法マーカーとしてはたらくと知られている。共通語において、“的 de” “地 de” “得 de” は読み方が同じく、構造助詞として用いられる際に“地 de” “得 de”とも“的 de”と書いても意味の変化がないため、本稿では“地 de”も“得 de”も“的 de”と見なす。しかし、“得 de”は“的 de” “地 de”と違い、形容詞の前につくため、本稿の研究対象としない。つまり、本稿の研究対象は“地 de”の性質が含まれる“的 de”である。

広東語にも構造助詞が多数あるが、共通語の構造助詞と一対一の対応をさせることができない。広東語において、共通語の“的 de”と対応する構造助詞は“嘅 ge” “噉 gam”という2つがある。“嘅 ge”は定語マーカーであり、“噉 gam”は状語マーカーである(黄海維 2004)。つまり、共通語は1つの助詞“的 de”が定語マーカーと状語マーカーとしてはたらくが、広東語ではそれぞれ違う助詞になる。このように、一種の構造助詞を対象として、共通語と広東語を対照することにより、構造助詞の文法機能がより明確に見られると期待される。

筆者はこれまで共通語と広東語の重ね型形容詞について考察した。重ね型形容詞は型ごとに異なる特徴をもつため、共通語の“的 de”と広東語の“嘅 ge” “噉 gam”が文法的マーカーとして重ね型形容詞の後ろにつくと異なる傾向が出てくると予想される。したがって、本稿は共通語と広東語の重ね型形容詞を<sup>2</sup>、構造助詞を見る材料として用いる。

本稿は、中国語の共通語と広東語における構造助詞 “的 de” と “噉 gam” の文法機能の共通点と相違点を明らかにすることを目的としている。重ね型形容詞が述語になる場面で、共通語の構造助詞 “的 de” と広東語の構造助詞 “噉 gam” の用法に着目し、両者の文法機能と特徴を明らかにする。

## 2 先行研究を通じた研究対象と方法

共通語の構造助詞 “的 de” について、朱徳熙(1961)は普段助詞として使われる “的 de” を文法機能から “的<sub>1</sub>” “的<sub>2</sub>” “的<sub>3</sub>” に分けられると主張した。具体的にいうと、“的<sub>1</sub>” は副詞性フレーズの接尾成分、“的<sub>2</sub>” は形容詞性フレーズの接尾成分、“的<sub>3</sub>” は名詞性フレーズの接尾成分であるとしている。その後、朱徳熙(1980)は広東語の“咁 gam<sup>3</sup>” “咁 dei” “嘅 ge” がそれぞれ共通語の “的<sub>1</sub>” “的<sub>2</sub>” “的<sub>3</sub>” に対応していると指摘した。

一方、彭小川(2003b)は朱徳熙(1980)の主張に対して異論を述べた。彭小川(2003b)は、“的 de” を分析するのには前に来る成分の品詞を見るのではなく、“的 de” の文法位置と文法機能に着目して分析すべきであると主張した。彭小川(2003b)によると、共通語の構造助詞

<sup>2</sup> 共通語の形容詞においては、主に AA 型(白白)、AABB 型(白白嫩嫩)、ABAB 型(雪白雪白)という完全重ね型と、Ass 型(白皑皑)、ppA 型(煞煞白)、A 里 AB 型(糊里糊涂)という不完全重ね型がある。広東語には、主に AA/A 一 A 型(白白/白一白)(AA 型は声調変化がある)、AA 咁型(白白咁)、AABB 型(白白淨淨)と、Ass 型(白雪雪)、ppA 型(立立乱)、A 哩 AB 型(花哩花碌)などがある。本稿の「重ね型形容詞」とは、単音節形容詞または二音節形容詞が重なるものおよび重なる接頭成分または接尾成分がつくものを指す。A 里(哩)AB 型は数が少なくて例文を作ることが困難であるため、分析材料としない。

<sup>3</sup> 広東語の“咁 gam”と“噉 gam”は声調も文法機能も異なる。朱徳熙(1980)が言及した“咁 gam”は実際に“噉 gam”であるが、後述の彭小川(2003b)は朱徳熙(1980)にしたがって“咁 gam”と表記した。

“的 de”は3つではなく、“的 de”と“地 de”の2つだけがあり、それらに対応する広東語の構造助詞も“咁 gam”“嘅 ge”の2つしか存在しない。つまり、広東語の“咁 dei”は構造助詞ではなく、“的 de”の文法機能を持っていないため、共通語の“的 de”に対応しない。また、状語マーカーとしての“地 de”に対応するのが“咁 gam”、定語マーカーとしての“的 de”に対応するのが“嘅 ge”であるとしている。

また、黄海維(2004)が広東語の構造助詞“嘅 ge”“噉 gam”と“咁 dei”について研究を進めた。黄海維(2004)は重ね型形容詞を「状態詞」というカテゴリーに入れて、“嘅 ge”“噉 gam”を状態詞の後続成分として、“嘅 ge”は連体修飾マーカー、“噉 gam”は連用修飾マーカーであると述べている。広東語における状態詞は述詞<sup>4</sup>の一類であり、文中の主な機能は述語になることであるといわれている。しかし、“咁 dei”が共通語の“的 de”の機能を持っているかという問題について、簡単に先行研究を否定できず、さらに深く考察や議論しないと判断できないとされている。

沈家煊(1997)は中国語形容詞の文法機能に関連するマーク形式を解明した。典型的な性質形容詞が定語になる場合と典型的な状態形容詞が述語になる場合は<sup>5</sup>無マーカーであるのに対し、典型的な性質形容詞が述語になる場合と典型的な状態形容詞が定語になる場合はマーカーにマークされるという。無マーカーとマークされる場合の中間段階は相対的であり、連続的であるとされている。すなわち、形容詞の状態性が強ければ強いほど述語になる際にマーカーが必要でなくなることから、状態性が強ければ強いほど述語性が強くなるといえる。

共通語の性質形容詞が述語になる場合は常に“的 de”にマークされる。状態形容詞については、沈家煊(1997)によると、述語になる際に、二音節形容詞の重ね型は“的 de”を伴わない傾向があり、単音節形容詞の重ね型は“的 de”を伴う傾向がある。広東語の“噉 gam”にもこのような傾向があると、黄海維(2004)は述べている。しかし、単音節形容詞の重ね型が述語になる際に“噉 gam”が伴わない場合も多いので、黄海維(2004)の指摘には疑問が残る。

以上から、本稿では下記の①②について調べる。

① 広東語の“噉 gam”は共通語の“的 de”に対応するとされているが、内部で状態性のバラエティをもつ重ね型形容詞が述語になる場合は、“噉 gam”のマーカーとしての使用状況は共通語と同じ傾向が見られるのか。

② その傾向の相違内容は、どのようなもので、その原因は何か。

以上の疑問を解決するために、本稿は構造助詞“的 de”と“噉 gam”と重ね型形容詞の共起関係を考察することを通して共通語と広東語の構造助詞の文法機能を比較する。

4 品詞分類の一種、動詞や形容詞等の述語を作ることができる、述語性を持つ詞類。

5 中国語では、物事の属性だけを表す形容詞を「性質形容詞」、重ね型などのような発話時点の具体的な状況を描写する形容詞を「状態形容詞」と呼ぶ。

### 3 重ね型形容詞と構造助詞の共起状況

本節は重ね型形容詞が述語になる場合のマーカ―使用状況を見ることで、共通語と広東語を比較する。下記の例文を通して共通語と広東語の重ね型形容詞の型ごとに述語になる場合のマーカ―“的 de”と“噉 gam”の使用状況を比較する<sup>6</sup>。

#### 3.1 共通語の重ね型形容詞と“的 de”の共起状況

(1)~(5)の例文は、a はコーパスからの原文であり、b は原文に“的 de”をなくしたりつけたりした後の文である。AA と Ass 型形容詞が述語になる場合、共通語の“的 de”が必ず後ろにつく必要がある。“的 de”がないと文が不自然になる。

(1) AA :

a. 他的皮肤很白，脸颊红红的的。

[彼は色白で、ほおはリンゴのように赤い。]

b. \*他的皮肤很白，脸颊红红。

(2) Ass :

a. 因为刚才的剧烈搏斗，高大泉那年轻的脸色红腾腾的。

[今の激しい格闘のせいで、高大泉の若々しい顔は真っ赤になっていた。]

b. \*因为刚才的剧烈搏斗，高大泉那年轻的脸色红腾腾。

ppA 型形容詞が述語になる場合、一般的に“的 de”が後ろに来ない。“的 de”が来ると文が言えなくはないが、やや不自然になる。

(3) ppA :

a. 屋里漆漆黑，一个粮食囤子占了三分之一的地方。

[家の中はまっ暗で、貯蔵穀物が三分の一の場所を占領していた。]

b. ? 屋里漆漆黑的，一个粮食囤子占了三分之一的地方。

AABB と ABAB 型形容詞が述語になる場合は“的 de”があってもなくても文が成立する。

(4) AABB :

a. 简朴的小屋里干干净净。

[粗末な小さい部屋だが、きちんと片付いている。]

b. 简朴的小屋里干干净净的。

<sup>6</sup> 本稿で使用する共通語の例文は中日対訳コーパスと北京大学 CCL によるものであり、広東語の例文は自作例である。

(5) ABAB :

- a. 有时候看着还白亮白亮正旺呢, 底子已经乏了, 用火筷子一触就稀里哗啦陷下去了。  
 [白熱光のような輝きを放って燃えているかと思うと、芯は燃え尽きて火箸を軽く触れただけで崩れ落ちることもある。]
- b. 有时候看着还白亮白亮的正旺呢, 底子已经乏了, 用火筷子一触就稀里哗啦陷下去了。

(1)と(2)から見られるように、共通語のAAとAss型重ね形容詞が述語になる場合は、常に“的de”が後続する。“的de”がないと非文になる。ppA型の場合は、(3)のように“的de”があってもなくても言えるが、“的de”がないほうが自然である。(4)と(5)のAABB型とABAB型は、“的de”がついてもつかなくても自然である。したがって、共通語の重ね型形容詞が述語になる場合に対する“的de”の必要性は型ごとに異なることが分かる。(1)~(5)で見られるように、型ごとの“的de”の必要性の大小で並べると図1のようになる(右に行けばいくほど必要性が大きい)。その傾向は沈家煊(1997)の形容詞の文法機能に関連するマーク形式と一致する。

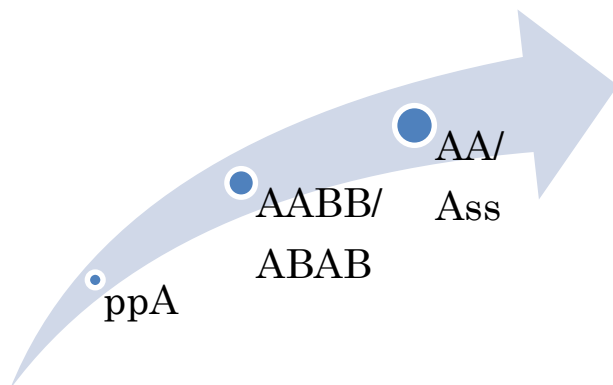


図1 共通語の重ね型形容詞が述語になる場合に対する“的de”の必要性

### 3.2 広東語の重ね型形容詞と“噉 gam”の共起状況

(6)~(10)の例文は、aは述語の重ね型形容詞の後ろに“噉 gam”がつかない自作例であり、bはaに“噉 gam”をつけた例文である。広東語のAA/A一A型形容詞が述語になる場合、後ろに“噉 gam”がつかない。“噉 gam”がつくと非文になる。

(6) AA/A一A :

- a. 佢皮肤好白, 块面红红/红一红。  
 [彼はとても色白で、ほおが赤い。]
- b. \*佢皮肤好白, 块面红红/红一红噉。

AA/A – A 型形容詞以外に、AA 哋型、Ass 型、ppA 型と AABB 型が述語になる場合、“噉 gam” の使用状況はすべて同じ傾向が見られる。述語になる重ね型形容詞の後ろに“噉 gam” が必要ではない。もし“噉 gam” がつくと話が終わっていないように感じられ、何か後続する話が来やすい。

(7) AA 哋 :

a. 佢皮肤好白, 块面红红哋。

[彼はとても色白で、ほおがほんのり赤い。]

b.? 佢皮肤好白, 块面红红哋噉。(, 好得意。)

[彼はとても色白で、ほおがほんのり赤くて(かわいい)。]

(8) Ass :

a. 佢皮肤好白, 块面红トト。

[彼はとても色白で、ほおが赤い。]

b.? 佢皮肤好白, 块面红トト噉。(, 好得意。)

[彼はとても色白で、ほおが赤くて(かわいい)。]

(9) ppA :

a. 佢之前做手术嘅伤口宜家仲刺刺痛。

[彼のその時の手術でできた傷跡は今でもキリキリ痛い。]

b.? 佢之前做手术嘅伤口宜家仲刺刺痛噉。(, 好辛苦。)

[彼のその時の手術でできた傷跡は今でもキリキリ痛くて(とてもつらい)。]

(10) AABB :

a. 佢细个嗰阵肥肥白白。

[彼は幼い時はふくよかで色白だった。]

b.? 佢细个嗰阵肥肥白白噉。(, 好得意。)

[彼は幼い時はふくよかで色白で(かわいかった)。]

(6)~(10)からわかるように、広東語の重ね型形容詞が述語になる場合は共通語と異なる傾向が見られる。すなわち、広東語の重ね型形容詞が述語になる場合は基本的に“噉 gam” を伴わないが、AA 哋型、Ass 型、ppA 型と AABB 型の後ろに“噉 gam” を伴うと、話がまだ終わっていないような感じが生じ、何かの後続内容が来やすい。こういった特徴は、共通語の形容詞文法機能に関するマーク形式と一致しない。

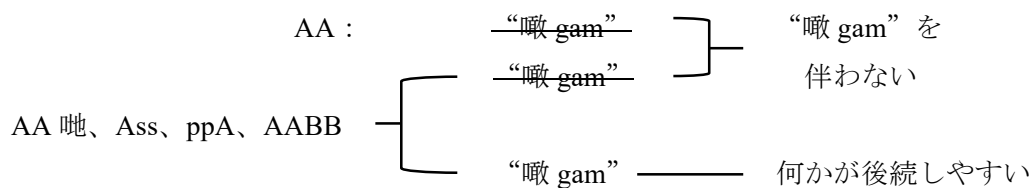


図2 広東語の重ね型形容詞が述語になる場合に“嘍 gam”との共起状況

#### 4 “的 de” と “嘍 gam” の対照

3.1 と 3.2 で重ね型形容詞と“的 de”、“嘍 gam”の共起状況を調べた結果、共通語の“的 de”の使用はグラデーションのようであるが、広東語の“嘍 gam”は重ね型形容詞の後ろにつかないほうがより自然である。したがって、重ね型形容詞が述語になる際に共通語の“的 de”と広東語の“嘍 gam”の使用傾向が同じではないといえる。

前述のように、沈家煊(1997)は中国語形容詞の文法機能に関連するマーク形式について、述語になる際に二音節形容詞の重ね型は“的 de”を伴わない傾向があり、単音節形容詞の重ね型は“的 de”を伴う傾向があると述べている。3.1の共通語の重ね型形容詞と“的 de”の共起状況を考慮すれば、重ね型形容詞が述語になる場合もその傾向が見られたため、沈家煊(1997)のマーク形式と一致している。しかし、3.2の広東語の場合は、単音節形容詞の重ね型も二音節形容詞の重ね型も基本的に“嘍 gam”を伴わず、共通語のその傾向が見られない。したがって、共通語における形容詞の文法機能に関連するマーク形式は広東語の形容詞に適用しないと考えられる。

それでは、このような結果をもたらした原因を探っていく。つまり、共通語と広東語の異なる傾向は重ね型形容詞が誘発したものなのか、構造助詞自体に原因が潜んでいるのかについて確認する。

##### 4.1 重ね型形容詞からの考察

共通語の重ね型形容詞が述語になる場合に対する“的 de”の必要性はグラデーションのようになっていることから、共通語の重ね型形容詞の状態性もグラデーションのようになることがわかる。それに対し、広東語の重ね型形容詞は基本的“嘍 gam”が必要ではなく、単独で述語になれることから、ある程度独立しているものであると考えられる。状態性が高ければ高いほど述語になる際に構造助詞のマーカが必要でなくなるといわれるため、広東語の重ね型形容詞は共通語と比べると、状態性がより強いといえる。共通語と広東語の重ね型形容詞の状態性をさらに比較するために、以下のような共通語と広東語同形の重ね型形容詞の例文が挙げられる。(11)~(14)の a は共通語の例文であり、b は広東語の a と同形の重ね型形容詞が含まれる同じ意味の例文である<sup>7</sup>。

<sup>7</sup> ppA 型形容詞は数が少ないため、例文が挙げられない。

AA型とAss型形容詞の場合は、共通語は後ろに構造助詞が必要であり、広東語は構造助詞が必要ではない。

(11) AA :

a. (陈师傅)头发长长的的, 眼睛红红的的。

b. (陈师傅)头发长长, 对眼红红。

[(陳さんは)長髪で、目が真赤だ。]

(12) Ass :

a. 洗完澡, 他全身香喷喷的。

b. 冲完凉, 佢全身香喷喷。

[風呂に入ったら、彼はからだじゅうがいい匂いがする。]

AABB型形容詞の場合は、共通語は後ろに構造助詞があってもなくても文が成立するが、広東語は構造助詞が必要ではない。

(13) AABB :

a. 房间虽然不大, 但是干干净净, 整整齐齐(的)。

b. 间房虽然唔大, 但是干干净净, 整整齐齐。

[小さい部屋だが、きれいできちんと片付いている。]

以上の例文が示すように、同形の重ね型形容詞でも、共通語のほうが構造助詞の必要な場面が多く、広東語は基本的に構造助詞がいらないので、共通語の重ね型形容詞に対する構造助詞の必要性が広東語より強いといえる。マーカーとしてはたらく構造助詞の必要性が強ければ強いほど状態性が強いということで、広東語の重ね型形容詞の状態性は共通語より強いと考えられる。これは両者の重ね型形容詞が述語になる際に構造助詞との共起状況の異なる傾向が現れる原因となる。

#### 4.2 構造助詞からの考察

黄海维(2004)によれば、広東語の状態詞は共通語の形容詞文法機能に関連するマーカー形式と同じ特徴がある。述語になる際に、二音節形容詞の重ね型のような典型的な状態詞はマーカー“噉 gam”が必ずしも必要ではなく、Ass型のような非典型的な状態詞は一般的にマーカー“噉 gam”を伴うといわれる。つまり、広東語の“噉 gam”は共通語の“的 de”のように述語マーカーとしてはたらくと、黄海维(2004)は主張している。

しかし、前述で示したように、実際に広東語の“噉 gam”と共通語の“的 de”は重ね型形容詞との共起状況の傾向が違うことが明らかになった。したがって、述語マーカーの機能から考えると、“噉 gam”は“的 de”に対応できない。



“噉 gam”と述語マーカ―としての“的 de”が対応できない原因として、“噉 gam”は“的 de”と違う、独自の特徴をもっているからであると考えられる。彭小川(2003a)によれば、広東語の構造助詞“噉 gam”の主な機能は状語マーカ―であり、指示詞“噉 gam”から虚化したものであると述べている。指示詞としての“噉 gam”は共通語の“这样(このよう)”“那样(あのよう)”に相当し、動詞の前にも名詞の前にもつき、単独でも使えるといわれる。

構造助詞だけではなく、“噉 gam”は連詞(単語やフレーズ、分句をつなぐ虚詞)と比況を表す助詞(……のよう)に虚化することもある。なお、この3種類の虚化用法は本質的に共通点があり、いずれも指示詞から何かをつなぐという機能を持つものに虚化したことであるとされている。下記の例文で、この3つの虚化を確認する。

(14) 構造助詞(状語マーカ―):

佢𠵼爆爆噉入咗屋。

[かれはカッカッしながら家に入った。]

(15) 連詞(……なら/では):

既然大家都话出去吃，噉你就唔使煮啦。

[みんな外へ食べに行くといったのなら、食事はつくらなくていいですよ。]

(16) 比況を表す助詞(まるで……のよう):

佢块面好似苹果噉，红トト。

[彼女はほおがまるでリンゴのように赤い。]

(14)~(16)で確認できるように、虚化された“噉 gam”は彭小川(2003a)が述べるように、何かをつなぐという機能を持つように見られる。具体的にいえば、前と後ろの文または句を順接的に連結するという機能を持っている。これは、前述の重ね型形容詞が述語になる場合からも見られた。形容詞の述語が“噉 gam”を伴うと、何かの後続内容が来るように感じられることを、この連結機能で解釈することができる。つまり、重ね型形容詞が述語になる際に虚化された“噉 gam”と共起すると話が終わっていない感じがする原因は、虚化された“噉 gam”が連結機能を持っていることである。例文(7)~(10)から見ると、この“噉 gam”は、後続発言を開かせるような機能を持ち、結果や添加などの順接の後続内容を誘導していると考えられる。

## 5 まとめと今後の課題

中国語共通語の“的 de”と広東語の“噉 gam”は、述語マーカ―の役割を担う構造助詞として、同じ使用傾向があるといわれるが、本稿では内部にバラエティがある重ね型形容詞が述語になる場面から、重ね型形容詞と共通語の“的 de”および広東語の“噉 gam”の共起状況を比較した。その結果、重ね型形容詞が述語になる際に、両者に異なる傾向が現

れた。共通語では、AA型とAss型は必ず構造助詞“的de”を伴い、AABB型とABAB型は“的de”があってもなくてもよい傾向が見られた。広東語では、基本的にすべての型で“噉gam”が必要ではないが、AA咄型、Ass型、ppA型、AABB型が“噉gam”と共起すると、話が終わっていないと感じられ、順接の後続内容が来やすい。

この傾向の相違はどのような原因がもたらしたのかについて、重ね型形容詞と構造助詞という2つの側面から考察した。まずは、共通語と広東語における同形の重ね型形容詞を用いて両者の状態性を比較した。その結果、広東語の重ね型形容詞は共通語より比較的独立しており、状態性が強いことがわかった。次に、構造助詞の面から調べたが、広東語の構造助詞“噉gam”は指示詞から虚化したものであることがわかった。指示詞から虚化されたものは何かをつなぐという連結機能をもっているといわれる。したがって、“噉gam”が述語である形容詞に後ろにつくと、順接の後続内容を誘導し、話が終わっていない感じが生じると考えられる。

以上のことから、重ね型形容詞が述語になる際に、共通語と広東語の構造助詞との共起傾向が異なる原因は、広東語の重ね型形容詞のほうが状態性が強いことであるといえる。また、広東語の述語である重ね型形容詞が“噉gam”を伴うと話が終わっていない感じが生じる原因は、指示詞から虚化された“噉gam”が連結機能を持っていることである。

本稿では重ね型形容詞が述語になる場合から共通語の“的de”と広東語の“噉gam”の文法機能を比較したが、今後の課題として、定语や状語になる場合からも比較すると興味深い結果が出ると期待される。

#### 参考文献

- 郭锐 (2000) 「表述功能的转化和“的”字的作用」『当代语言学』2000-1: 37-52.
- 黄海维 (2004) 「广州话中的状态词及“咄、噉、嘅」『汉语方言语法研究——第二届国际汉语方言语法学术研讨会论文集』129-147, 黑龙江人民出版社.
- 彭小川 (2003a) 「广州话的结构助词“噉」『第八届国际粤方言研讨会论文集』546-557, 中国社会科学出版社.
- (2003b) 「关于“的”的一些思考——从广州话没有三个“的”说起」『汉语方言语法研究和探索——首届国际汉语方言语法学术研讨会论文集』164-170, 黑龙江人民出版社.
- (2010) 『广州话助词研究』暨南大学出版社.
- 单韵鸣 (2013) 「广州话形容词重叠变调形式的变异」『语言研究集刊』2013-2: 151-160.
- 沈家煊 (1997) 「形容词句法功能的标记模式」『中国语文』1997-4: 242-250.
- 石定栩 (2000) 「形容词重叠的句法地位」『华中语学论库(第二辑)——汉语重叠问题』193-205.
- 朱德熙 (1961) 「说“的”」『中国语文』1961-12
- (1980) 「北京话, 广州话, 文水话和福州话里的“的”字」『方言』1980-4: 161-165

劉月華ほか(著); 相原茂(監訳)(1988)『現代中国語文法総覧(上)』くろしお出版  
スティーブン・マッシュューズ, ヴァージニア・イップ(著); 千島英一, 片岡新(訳)(2000)『広  
東語文法』東方書店  
(桂雯 筑波大学大学院生)

# Grammatical function of "de" in Chinese mandarin and "gam" of Cantonese: A case of reduplicative adjectives as predicates

GUI Wen

In order to compare the grammatical functions of "de" in Chinese mandarin and "gam" in Cantonese, this study compared the co-occurrence status of reduplicative adjectives and "de" in Chinese mandarin or "gam" in Cantonese when reduplicative adjectives serve as predicates. As a result, different tendencies appeared between them.

The author examined the reasons of the difference from two aspects: reduplicative adjectives and structural particles. The results reveal that Cantonese reduplicative adjectives have strong stativity, and subsequent components are likely to come after "gam" in Cantonese because "gam" is fluctuated from a indicator.